



2018 情報ライブラリ ブックフェア
入場無料

SHEROES
みんなのヒーローズ展



10名の選者が選ぶ^{ヒーロー}SHEROとその本

その人の存在から勇気をもらい、
その人のようになりたいと憧れる存在が、あなたにもいませんか？
この企画では、男性HERO「ヒーロー」ではなく、
女性SHERO「シーロー」に光を当てます。
あの人を選んだSHERO「シーロー」とその本に、触れてみませんか？
全ての本は貸出・閲覧できます。ブックリストも無料でお持ち帰りいただけます。

展示期間

★ 2/15 (木) ~ 4/15 (日)

フォーラム (男女共同参画センター横浜) 情報ライブラリ

★ 4/20 (金) ~ 6/19 (火)

アートフォーラムあざみ野 (男女共同参画センター横浜北) 交流ラウンジ

★ 6/25 (月) ~ 8/25 (土)

フォーラム南太田 (男女共同参画センター横浜南) 交流ラウンジ

お問い合わせ：045-862-5056

SHEROES (シーローズ) とは? : SHERO (シーロー) の複数形

SHERO (シーロー) とは?

: SHE (シー 彼女) + HERO (ヒーロー 英雄・偉人・主人公 「岩波新英和辞典」より)

: 女性の主人公 (「weblio英和辞典・和英辞典」より)

: 女性の偉人・みんながあこがれる存在

その人らしく光を放ち、社会に影響を与えてきた女性は多いものの、記録されず、埋もれてきた現状もあります。

このブックフェアでは、多様なジャンルで活躍する10名の方に、その人の憧れの女性・影響を受けた女性……「私にとってのSHERO シーロー」と、その人にまつわる本を選んで頂きました。

シーロー
SHERO の生き方や存在は、女の子や女性の ロールモデル となっていくことでしょう。

※ロールモデル:「あの人のようにになりたい……!」と思える対象やお手本。人は誰でも無意識のうちにロールモデルを選び、その影響を受けながら成長すると言われています。

女性のロールモデルが増えることは、夢や可能性をあきらめることなく、誰もが自分らしく生きるための、ひとつの力になります。

以下は、選者のひとり、作家の北原みのりさんからのメッセージです。

「あんな女性になりたい」と思える女性が私にはたくさんいる。

だからこそ、私は絶望せずに生きてこられたのだと思う。

SHEROとは、とうてい追いつかないと思いつつもいつか近づきたい人。彼女のようになれないと分かっているけど、あなたが生きていることが、私を生かしてくれる。そのように感じられる人。

とはいえ一方で、たくさんのSHEROが心にいるというのに、彼女たちにまつわる本を探す難しさをどう考えるべきなのか。そんな悔しさを感じています。

……女性の人生は、女性の歴史は、SHEROは、女自身が語り、女たちによって語り継いでいかねばいけないのだと、この企画を通して改めて実感しています。

あなたのSHEROは、誰ですか？

いけべ あおい

池辺葵



漫画家

2009年、「落陽」でデビュー。その後、洋裁店で働く女性を主人公とした「繕い裁つ人」の連載を開始。同作は2015年1月に実写映画が全国公開。

主な作品に、「プリンセスメゾン」（小学館より4巻まで既刊・「やわらかスピリッツ」にて連載中・ドラマ化もされた）喫茶店を舞台とした群像劇「サウダーデ」（講談社）、老婆の夢と現実を描いた傑作「どぶがわ」（秋田書店）など。等身大の女性の描き方に定評がある。

シーロー

私にとってのSHERO

まろ

作家・森茉莉さん

卵料理やリプトンティ、磨りガラスからさす光のこと、誰もが手に入れられる日常をとっても愛おしく描写される。

「恋がなくても人生は薔薇色になりうる。

私は恋をしていなくても、恋をしている人のような楽しさを持っているということは、大変に素晴らしいことだと、思っている。」

（私の美の世界 - タオルの話 - より）

森茉莉さんが語ってくださったこの一つの文章をずっと忘れないでいたい。

おすすめの本

「貧乏サヴァラン」（ちくま文庫）、「私の美の世界」（新潮文庫）

お み ほ
呉美保



映画監督

1977年、三重県生まれ。
主な監督作品に「オカンの嫁入り」、「きみはいい子」など。「そのみにて光輝く」にて第38回 モントリオール世界映画祭 最優秀監督賞受賞。CM監督作品・受賞歴も数多くある。

私にとっての^{ヒーロー}SHERO 作家・田辺聖子さん

田辺聖子さんを知ったのは、映画「ジョゼと虎と魚たち」の原作からです。

ずいぶん前に書かれた本にもかかわらず男と女の面倒な機微^あが褪せることなく、その普遍性に痺れました。

その後、田辺さんのいくつかの本を読む中で「姥^{うば}シリーズ」に出会いました。歌子さんという神戸に住む70代のお婆さんの豪快愉快的な毎日を綴った物語。心が沈んでいるときにパラパラめくるとあら不思議、悩みが吹き飛んでいきます。

おすすめの本

「姥ざかり」、「姥ときめき」、「姥うかれ」、
「姥勝手」（全て新潮文庫）

かまたかのこ
鎌田華乃子



社会起業家

コミュニティオーガナイズングジャパン代表

横浜生まれ。子どもの頃から社会・環境問題に関心があったが、11年間の会社員生活の中で人々の生活を良くするためには市民社会が重要であることを痛感しハーバード大学ケネディスクールに留学しMASTER IN PUBLIC ADMINISTRATION（行政学修士）のプログラムを修了。卒業後ニューヨークにあるコミュニティ・オーガナイズングを実践する地域組織にて市民参加の様々な形を現場で学んだ後、2013年9月に帰国。COJを2014年1月に仲間達と立ち上げ、ワークショップやコーチングを通じて、COの実践を広める活動を全国で行っている。

シーロー

私にとってのSHERO 「風の谷のナウシカ」のナウシカ

ナウシカに出会ったのは小学校3、4年生くらいだったかもしれません。自宅のテレビのロードショーで観て、自由自在に風に乗って飛び、戦い、人々からも信頼される姿に「こんな人になりたい」とワクワクしました。彼女が自然や動物を愛し、慈しんでいる姿が、野原、小川や木が大好きだった自分と重なったため、共感したのだと思います。

その当時、母親の体調が悪かったり、でも引っ込み思案で自信がなかったので「強くなりたい」と思っていた私に「女の子でも強い気持ちがあれば強くなれる」と思わせてくれたような気がします。

おすすめの本

「風の谷のナウシカ」シリーズ（徳間書店）

きし まさひこ

岸政彦



社会学者

立命館大学大学院先端総合学術研究科教授

1967年生まれ。著書に『断片的なものの社会学』（朝日出版・紀伊國屋じんぶん大賞2016受賞）、『愛と欲望の雑談』（ミシマ社・雨宮まみとの共著）など。

初の小説集「ピニール傘」が第156回芥川賞候補作となる。

シーロー

私にとってのSHERO 雨宮まみさん

対談の企画をきっかけにお会いしたのですが、そのときに『女子をこじらせて』を一読してとても感動しました。それ以来の大ファンです。本当に美しい文章というものは、泥のなかを這いずるような自己との闘いの果てにしか生まれないことを実感しました。正しくない自分、弱い自分、醜い自分から出発して、それでも正しくあること、強くあること、美しくあることを諦めない。女性であることのしんどさから目をそむけず、それでも女性として生きていくことを選ぶ。これは、そういう本です。

『東京を生きる』も『まじめに生きるって損ですか？』も、それぞれとても素晴らしい本です。私は雨宮さんから、全力で生きる、ということはどういうことかを教えてもらいました。これからも、何度も読み返す本になると思います。

おすすめの本

「女子をこじらせて」（ポット出版／幻冬舎文庫）、「東京を生きる」（大和書房）、「まじめに生きるって損ですか？」（ポット出版）

きたはら みのり
北原みのり



作家・コラムニスト・起業家

1970年生まれ。横浜市出身。津田塾大学国際関係学科卒業。

作家・コラムニストとして「週刊朝日」での連載やNHKテレビ「ハートネットTV」出演、新聞各紙、ファッション誌「VERY」などへの寄稿、多数。

日本で初めて、女性が安全に・安心して自分の体や心と向き合いながら性を考える女性目線のショップ「ラブピースクラブ」と、ブラジリアンワックスなどのケアが受けられるサロン「OLIVE」を経営。

著書に「メロスのように走らない」（KKベストセラーズ）、「毒婦」（朝日新聞出版）、『性と国家』（河出書房新社）、新刊「日本のフェミニズム」（河出書房新書）など、多数。多くの女性たちより支持されている。

シーロー さぎさわ めぐむ
私にとってのSHERO 作家・鷺沢萌さん

SHERO。一人をあげることは非常に難しいです。見つからないのではなく、あまりにもたくさんいるから。

「あんな女性になりたい」と思える女性が私にはたくさんいる。だからこそ、私は絶望せずに生きてこられたのだと思う。

とはいえ一方で、たくさんSHEROが心にいるというのに、彼女たちにまつわる本を探す難しさをどう考えるべきなのか。そんな悔しさを感じています。

SHEROの多くは、“男のように”語り継がれることなく、銅像を建てられることもなく、自伝を書くこともなく、ただ自分の人生を生き、そして時間と共に記憶から薄れていっていることに気がつかされたからです。

女性の人生は、女性の歴史は、SHEROは、女自身が語り、女たちによって語り継いでいかねばいけないのだと、この企画を通して改めて実感しています。SHERO企画をつくってくれた皆さん、ありがとうございます！

さて。その中で、私が今、心からその生に感謝しつつ、そして私のSHEROであると皆さんと共有したい一人が鷺沢萌さんです。

1987年「かわべりの道」で文学界新人賞を取った鷺沢さんのデビューは衝撃的でした。ほぼ同世代の鷺沢さんの成熟に圧倒され、こうしてはられない、私も私の人生を生きなければ・・・という激しい焦燥を味わったのです。

SHEROとは、とうてい追いつかないと思いながらもいつか近づきたい人。彼女のようになれないと分かっているけど、あなたが生きることが、私を生かしてくれる。そのように感じられる人。

鷺沢さんの文章は、とても正直だった。人を傷つけたことにいつまでも傷つく弱さにも、何度もはっとさせられながら夢中で読書したことは、私の20代の貴重な読書体験になっています。

今も、私はときどき鷺沢さんを読み返します。もう新刊が出されない作家の小説やエッセーを読むのは、読書がどこか祈りのような行為になります。そして私は、読みながら、何に祈っているのだろう、何を祈りたいのだろう、と立ち止まります。

それはきっと、女が語る、女が書く、女がこの世界を描写し、そして傷つきながらも人を世界を知ろうとする、その真っ直ぐさに祈りたいのかもしれない。

おすすめの本

「私の話」(河出書房新社)

「コマのおかあさん」(講談社文庫)

こじま けいこ
小島慶子



タレント・エッセイスト
東京大学大学院情報学環客員研究員

著書に「るるらいらい」（講談社）、「絵になる子育て
なんかない」（幻冬舎）など、多数あり。直言で、多く
の女性たちを「解放」している。

私にとってのSHERO

20年ほど前にラジオの生放送でお話したリスナーの女性

二十年ほど前に、ラジオ番組で「結婚したら仕事を辞めるべきかどうか」を議論していた時のこと（当時はまだそんな議論がありました）。

ある女性と電話が繋がり「私は33歳だが、周囲で結婚後も仕事を続けて幸せになっている女性を見たことがない。結婚して子供も産んで、働き続けて幸せになっている人を見れば、自分もそうしたいと思えるかも」と話してくれました。当時私は25歳で独身でしたが、そうか、そんな女性に自分はなりたいなと思いました。その後の結婚や出産に迷いがなかったのは、彼女の言葉があったからかもしれません。

ただ、残念ながらあれから二十年以上経っても、働きながら子育てするのは容易なことではありません。むしろ家計は一層苦しくなり、子供を持つことを諦める夫婦もいます。ひとり親や、結婚しない選択をする人もいます。今は男女に関係なく、どのような生き方を選んでも、働きながら人間らしく生きることができる世の中を求めています。なのに制度が現実に追いついていないのです。今もよく、彼女の言葉を思い出します。

トミヤマユキコ



ライター・早稲田大学文化構想学部助教

1979年秋田県生まれ。

2017年4月から早稲田大学文学学術院助教。

少女マンガ研究を中心としたサブカルチャー関連講座を担当。ライターとしては『文學界』『ESSE』『エル・グルメ』などで日本の文学・マンガ・フードカルチャーに関する連載を持つ。著書に『大学1年生の歩き方 先輩たちが教える転ばぬ先の12のステップ』など。

シーロー

私にとってのSHERO

「魔女の宅急便」のキキ

小学生の頃、クラスメイトに「ちょっとだけキキに似てる」と言われたことに気を良くして（笑）、映画を観たり、原作を読んだりしたのですが、キキのことを知れば知るほど、「いや、似てるなんておこがまい、わたしなんてまだまだだ!」と思っていました。

世界に対して、いつでもしゃんと背筋を伸ばして立ち向かっているし、親とか男に頼らず、自分の力で考えることを知っている。その気高さに憧れました。すっかりキキの年齢を追い越したわたしですが、これからも人生で悩んだら「キキならどうするだろう?」をまっさきに考えると思います。

おすすめの本

原作『魔女の宅急便』シリーズ（角野栄子作・福音館）
フィルムコミック『魔女の宅急便』1～4（徳間書店）

ピーター・バラカン



ブロードキャスター

1951年ロンドン生まれ。ロンドン大学日本語学科を卒業後、1974年に音楽出版社の著作権業務に就くため来日。現在フリーのブロードキャスターとして活動し、「バラカン・ビート」（インターFM）、「ウィークエンド・サンシャイン」（NHK-FM）、「ライフスタイル・ミュージアム」（東京FM）、「ジャパノロジー・プラス」（NHK BS1）などを担当。

著書に『ロックの英詞を読む～世界を変える歌』（集英社インターナショナル）、『ラジオのこちら側』（岩波新書）、『魂（ソウル）のゆくえ』（アルテスパブリッシング）、『ロックの英詞を読む』（集英社インターナショナル）、『ぼくが愛するロック名盤240』（講談社+A文庫）、『200CD ブラック・ミュージック』（学研）など、多数。ウェブサイトは [HTTP://PETERBARAKAN.NET](http://PETERBARAKAN.NET)

私にとってのSHERO

シーロー

ユン・チアンさん

激動の中国で過ごした祖母、母、そして本人の人生について書いた、小説のような自伝ですが、特に本人が体験した文化大革命時代の生活の様子は歴史の本などからは得られない、恐ろしくリアルなものが伝わりました。

憧れとか影響というのではありませんが、大変感銘を受けた一冊でしたし、家族がまだ中国にいるのにこんな本を出版するのはかなり勇気の要ることだったはずです。

おすすめの本

「ワイルド・スワン」（講談社）

みずしま ひろこ

水島 広子



精神科医 元衆議院議員

1968年3月21日東京生まれ。慶応義塾大学医学部卒業、同大学院修了（医学博士）。摂食障害、気分障害、トラウマ関連障害、思春期前後の問題や家族の病理、漢方医学などが専門。「対人関係療法」の日本における第一人者。慶大医学部精神神経科勤務を経て、2000年6月の衆議院選挙で初当選。2期5年間をつとめる。

著書に「『自分の居場所がない』と感じたときに読む本」（かんき出版）、「対人関係療法で改善する 夫婦・パートナー関係」、「それでいい。自分を認めてラクになる対人関係入門」（ともに 創元社）など、多数あり。

私にとっての^{シーロー}SHERO 元厚生労働大臣 小宮山洋子さん

私が選挙の女性公募に応じた時の責任者が小宮山さんでした。公募のテストを終え、スイスの学会から帰ってみると「待っていましたよ。一番の成績なので宇都宮で出馬していただいだけませんか」と。

本当にまじめに政治のことを考えている小宮山さんのお考えに触れ、当落は関係なく（当選の努力はもちろんしますが）小宮山さんのような方にやる気を失ってほしくない、というような思いで、東京から宇都宮への、1歳の子を抱えての移住を果たし、選挙活動に没頭していきました。

おすすめの本

「私の政治の歩き方」（八月書館）
「厚生労働大臣・副大臣742日」（八月書館）

やすだ なつき
安田菜津紀



フォト・ジャーナリスト

1987年神奈川県生まれ。

現在、カンボジアを中心に、東南アジア、中東、アフリカ、日本国内で貧困や災害の取材を進める。東日本大震災以降は陸前高田市を中心に、被災地を記録し続けている。

2012年、「HIVと共に生まれる -ウガンダのエイズ孤児たち-」で第8回名取洋之助写真賞受賞。写真絵本に『それでも、海へ 陸前高田に生きる』（ポプラ社）、著書に『君とまた、あの場所へ シリア難民の明日』（新潮社）。

シーロー

私にとってのSHERO サヘル・ローズさん

戦火に追われ、孤児院から異国の地である日本へ、そこでまた直面することになる貧困と過酷ないじめ…サヘルさんの著書には、これまでの壮絶な半生が綴られています。それでも生き抜いてきた彼女の言葉は、暗闇の中でなお輝く、尊厳の光でした。その後、縁あってお会いした彼女は、柔らかく人を見つめ、何事にも謙虚に向き合うことを決して忘れない人でした。言葉を発するとき、写真で伝えるとき、ふと立ち止まって考えることがあります。私は今、サヘルさんのように、優しい表現ができているだろうか、と。

おすすめの本

「戦場から女優へ」(文芸春秋)

あなたのSHEROは、誰ですか？

あなたのSHEROメモ

あなたの心の中にいるあの人を、思い出して、書いてみて下さい

私のSHERO

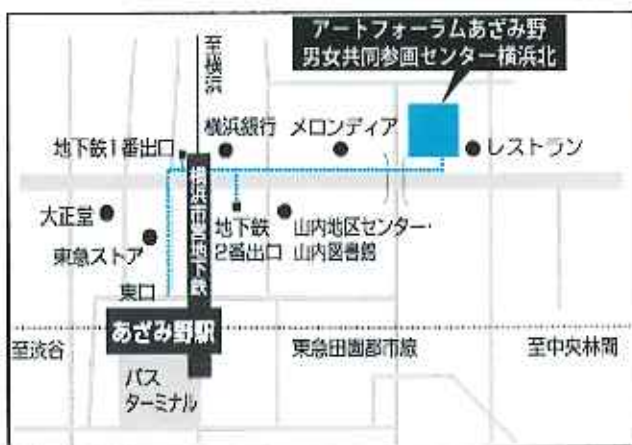
その人に影響を受けた、憧れたエピソード

その方のおすすめの本

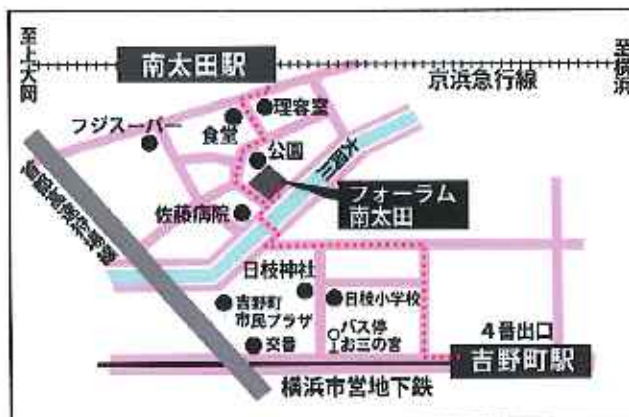
会場のご案内



フォーラム (男女共同参画センター横浜)
開催期間：2月15日(木)～4月15日(日)
 9:00～21:00 (月曜～土曜)
 9:00～17:00 (日曜・祝日)
 *休館日：毎月第4木曜日
 電話：045-862-5056
 住所：〒244-0816 横浜市戸塚区上倉田町435-1
 交通：JH・市営地下鉄戸塚駅西口徒歩5分
 ※できるだけ公共交通機関をご利用ください。駐車場は、からのだの不自由な方の自転車や荷物の搬入を優先いたします。



アートフォーラムあざみ野
(男女共同参画センター横浜北)
開催期間：4月20日(金)～6月19日(火)
 9:00～21:00 (月曜～土曜)
 9:00～17:00 (日曜・祝日)
 *休館日：毎月第4月曜日
 電話：045-910-5700
 住所：〒225-0012 横浜市青葉区あざみ野南1-17-3
 交通：東急田園都市線あざみ野駅東口徒歩5分
 横浜市営地下鉄あざみ野駅1番出口徒歩5分
 ※できるだけ公共交通機関をご利用ください。駐車場は予約制(有料)です。



フォーラム南太田
(男女共同参画センター横浜南)
開催期間：6月25日(月)～8月25日(土)
 9:00～21:00
 *休館日：毎月第3月曜日
 電話：045-714-5911
 住所：〒232-0006 横浜市南区南太田1-7-20
 交通：横浜市営地下鉄吉野町駅徒歩7分
 京浜急行線南太田駅徒歩3分 ※自動車での来館はご遠慮ください。

無料です！ 情報ライブラリの「セット貸し出し」

「ブックフェア」・「おすすめ本フェア」の展示本やブックリストのほか、ご希望のテーマに沿った本(子育て・人権・ハラスメント・LGBT 等)をセットにして貸し出しいたします。グループの学習会やイベント、企業の研修、学校、地区センター、図書館などでの展示にご利用下さい。送料のみご負担いただきます。

お問い合わせ：男女共同参画センター横浜 情報ライブラリ

電話：045-862-5056 www.women.city.yokohama.jp/y

- フォーラムは、公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会が管理運営する男女共同参画センター3館のうちの1つです。
- パソコン(スマートフォン)向けにメールマガジンで講座・イベント情報をお届けしています。登録は協会のHPまたはQRコード(右)から。

